

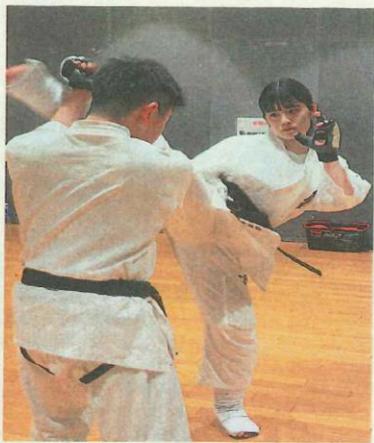
2023年 5月25日(木) 2年5組小原一花さん 空手国際大会で優勝
 以下、5月25日(木)の岩手日報の記事を引用します

型競技 水沢高2年・小原一花さん



型競技で優勝した小原一花さん。実力者を押ししのけ稽古の成果を示した

空手国際大会



組手競技で初優勝した藤本美桜さん。得意技の上段回し蹴りを磨いて臨んだ

組手競技 盛岡大3年・藤本美桜さん

2023国際親善空手道

選手権大会(国際空手道連盟極真会館主催)で、水沢高2年の小原一花さん(奥州市江刺稲瀬)が型競技、盛岡大3年の藤本美桜さん(20)北上市柳原町)が組手競技でともに優勝した。小原さんは15、34歳女子の部で最年少となる16歳での制覇、藤本さんは初の栄冠を勝ち取った。北上道場で幼少期から実力を伸ばしてきた2人は「自分の試合ができた」と謙虚に受け止め、さらなる成長を誓う。

大会は4月29、30の両日、東京体育館(東京都渋谷区)で開かれ、同連盟に所属する国内外の約1500人が出場。小原さんは31人が競ったカテゴリーで、「撃破その3」の型による予選をトップ通過し、6人が進出した決勝は「抜巻」で、正確性と力強さを見せた。5歳で空手を始め、稲瀬小6年で同大会の型11歳、

磨いた心技体 結実

江刺一中3年にはオンライン大会の型12、14歳女子を制した。今回は幅広い年齢層の実力者が集い、「優勝まで5、6年かかると思っていた。苦手意識のあった決勝の型も落ち着いて臨むことができた」と喜ぶ。

藤本さんは組手18、34歳女子65以下級(出場8人)にエントリー。相手を倒しきれなかった準決勝の反省を踏まえ、決勝は上背が一回り大きいロシア選手に、開始5秒で上段回し蹴り、残り30秒で上段回し蹴りを決めて完勝した。

小学2年から空手を始め、今も盛岡大学部英語文化学科で学びながら週2回道場に通う。「礼儀作法が身に付き、一撃で倒す極真空手が好き。道場の仲間」に恵まれ結果を残すことができた」と笑顔を見せる。

新型コロナウイルス禍前と同様の規模で開かれた大舞台で心技体の充実を示した2人。指導する北上道場の菅勝志さん(53)は「一花さんは修正力の高さ、美桜さんは瞬発力の強さが持ち味。2人も優勝して信じられない思いだと称賛する」。